全国大学実務教育協会

FD教職員実践研究会　参加報告

（2023.9.24(日) アルカディア市ヶ谷）

2023.10.24

ビジネス実務学科　藤元

第９回ＦＤ教職員実践研究会のスケジュール

時刻	時間	内　容	進め方 および 担当講師
10:00	10	オープニング	開会挨拶・講師紹介 ： 田邉事務局長 研究会進行 ： 小川 勤 先生
10:10	30	基調講演 「FD 活動の意義と教育の質保証」	講師 ： 清水一彦 先生 聖徳大学学長特別補佐・教授 山梨県立大学特任教授 全国大学実務教育協会・副会長
10:40	20	グループ内自己紹介および休憩	各グループで自己紹介
11:00	60	事例発表 「FD の実践と課題」-尚絅学院大学の実践- ※質疑応答を含む	(発表者紹介・清水先生) 発表 ： 太田健児 先生 尚絅学院大学 総合人間科学系人文部門教授
12:00	60	休憩 〈昼食〉	※会場後方の席にてお弁当
13:00	90	テーマ別グループ研究会 ・参加者の事例発表 ・意見交換 (選択テーマ) テーマ１「FD・SD 運営上の課題」 テーマ２「シラバス作成と授業デザイン」 テーマ３「学修成果の可視化」	・FD事例報告に対する意見交換 ・グループメンバーによる事例発表 ・グループ内意見交換 (担当講師) テーマ１ ： 小川先生 テーマ２ ： 大宮先生 テーマ３ ： 清水先生
14:30	30	休憩 と 報告準備	※コーヒータイム
15:00	60	グループ研究結果の全体発表 および全体討議	
16:00	10	会場準備	
16:10	50	情報交換会	FD 実践事例について参加者同士で情報交換を行う
17:00		終了	

1　基調講演「FD活動の意義と教育の質保証」

清水一彦先生（全国大学実務教育協会・副会長）

FDは第2ラウンドに突入！？

1ラウンド＝啓蒙的な伝達講習方式

★2ラウンド＝協働的な相互研修方式

皆さんの大学は？

3ラウンド＝FDの組織化・システム化

教育共同体の形成＝「想像の共同体」

- 場の共有
- 相互交渉・コミュニケーション
- 文化の共有
- 連帯の絆

令和4年9月で廃止されました！

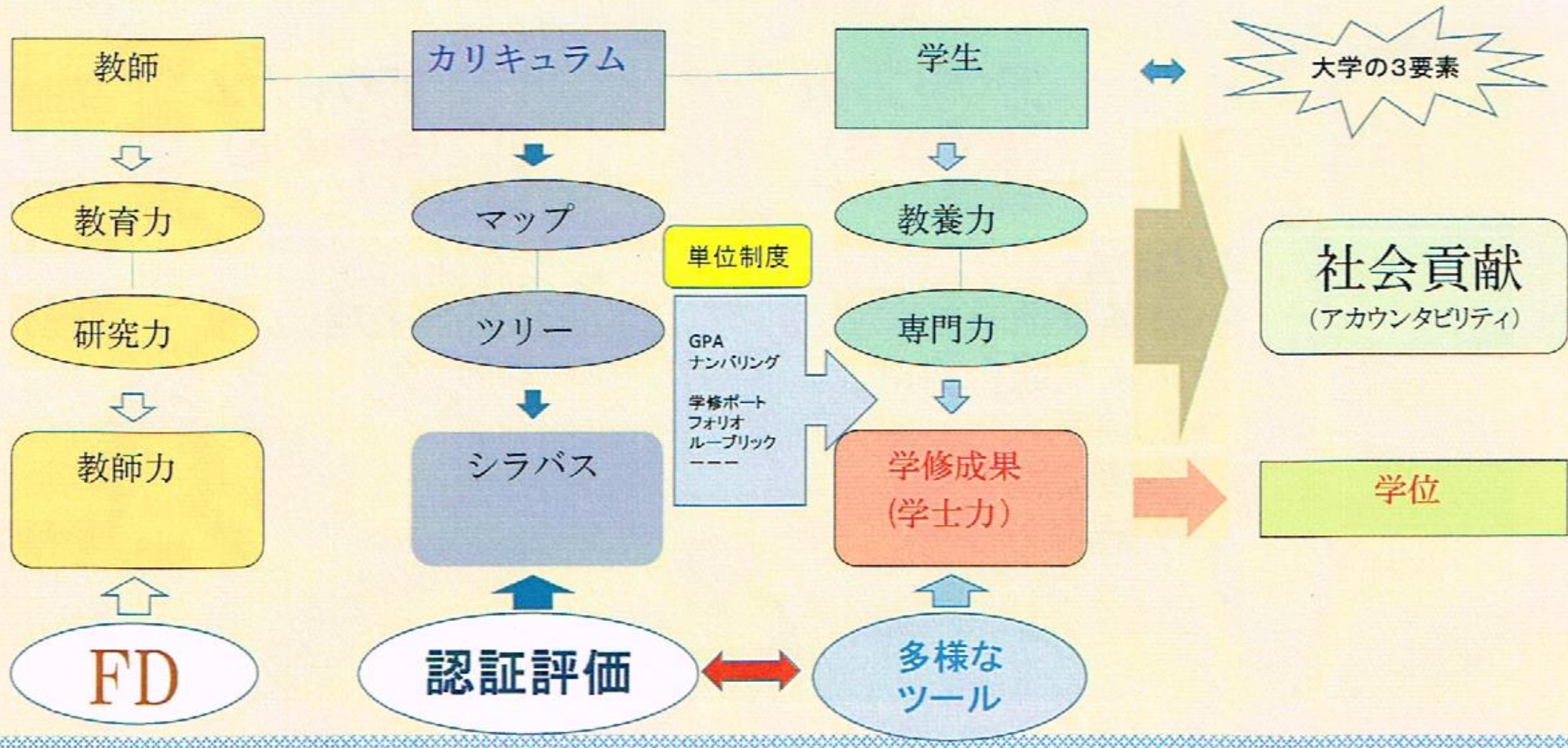
（参考）京都大学高等教育研究開発推進センター

日本最初のFD拠点

4

教育の質保証の考え方（原点回帰）

－社会に有為な人材輩出のシステム構造－



多様なツール（学修成果可視化の方法）

	マクロレベル 大学全体・学部・プログラム	ミクロレベル 教室内・授業	
直接データ	標準テスト （CLA,TOEFL,TOEIC） ルーブリック 国家試験合格率 GPA	ルーブリック eポートフォリオ レポート テスト （個別テスト、標準テスト） 卒業論文	アウトカム・アセスメント 複数の組み合わせが効果的
間接データ	学生実態調査 学生満足度調査 卒業生調査 雇用者調査 就職率	授業評価	

学修成果の把握・可視化（私見）

	アウトプット （教育成果）	アウトカム （学修成果）
測定方法	・GPA ・各種標準テスト ・国家試験合格率 ・就職率 ・各種調査 ・卒業論文	・授業評価 ・e-ポートフォリオ ・ルーブリック

教学マネジメント指針の概要

資料
中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
（第１２回）R1.12.17

予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者を育成するためには、学修者本位の教育への転換が必要。
そのためには、教育組織としての大学が教学マネジメントという考え方を重視していく必要。

教学マネジメントとは

- ○ 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。
- ○ その確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源（人員や施設等）や学生の時間は有限であるという視点や、学修者本位の教育の実現のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという視点が特に重視される。

教学マネジメント指針とは

- ○ 学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営（＝教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営）の在り方を示すもの。
- ○ ただし、教学マネジメントは、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものであり、本指針は「マニュアル」ではない。
- ○ 教育改善の取組が十分な成果に結びついていない大学等に対し、質保証の観点から確実に実施されることが必要な取組等を分かりやすく示し、その取組を促進することを主眼に置く。
- ○ 本指針を参照することが最も強く望まれるのは、学長・副学長や学部長等である。また、実際に教育等に携わる教職員のほか、学生や学費負担者、入学希望者をはじめ、地域社会や産業界といった大学に関わる関係者にも理解されるよう作成されている。

学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に、以下のような教学マネジメントを確立することが求められる。　「大学全体」レベル

三つの方針

「卒業認定・学位授与の方針」（DP）、「教育課程編成・実施の方針」（CP）、「入学者受入れの方針」（AP）

教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

「学位プログラム」レベル

Ⅰ「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- ✓ 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、DPを具体的かつ明確に設定

Ⅱ 授業科目・教育課程の編成・実施

- ✓ 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成
- ✓ 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証が必要
- ✓ 密度の濃い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、同時に履修する授業科目数の絞り込みが求められる
- ✓ 学生・教員の共通理解の基盤や成績評価の基点として、シラバスには適切な項目を盛り込む必要

シラバス、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリング、キャップ制、週複数回授業、アクティブ・ラーニング、主専攻・副専攻

「個々の授業科目」レベル

Ⅲ 学修成果・教育成果の把握・可視化

- ✓ 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせて多元的に学修成果・教育成果を把握・可視化
- ✓ 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成績評価の信頼性を確保

ルーブリック、GPA、学修ポートフォリオ

項目の例は別途整理

Ⅳ 教学マネジメントを支える基盤（FD・SD、教学IR）

- ✓ DPに沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義
- ✓ 対象者の役職・経験に応じた適切かつ最適なFD・SDを、教育改善活動としても位置付け、組織的かつ体系的に実施
- ✓ 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学IRの学内理解や、必要な制度整備・人材育成を促進

Ⅰ～Ⅴの取組を、大学全体、学位プログラム、個々の授業科目のそれぞれのレベルで実施しつつ、全体として整合性を確保。

学位プログラム共通の考え方や尺度（アセスメントプラン）に則り、大学教育の成果を点検・評価

Ⅴ 情報公表

- ✓ 各大学が学修者本位の観点から教育を充実する上で、学修成果・教育成果を自発的・積極的に公表していくことが必要
- ✓ 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図る上でも情報公表は重要
- ✓ 積極的な説明責任を果たすことで、社会からの信頼と支援を得るという好循環の形成が求められる

積極的な説明責任

社会からの信頼と支援

参考資料

令和4年10月
大学設置基準の改正

今回の基準改正で大学の力量が問われる！

第 8 条　授業科目の担当（関連して第11条）
第21条　単位の計算方法
第27条　単位の授与
第57条　教育課程等特例認定制度（新設）

今回の改正の特徴（私見）

1. 学位プログラム化の促進　→「基幹教員制度」の導入
（学部等連係課程、クロスアポイントメントの奨励）　「指導補助者」の授業担当制度

2. 現状に見合った規定の整理　→教職協働、単位制度の運用

3. グローバル化への対応　→卒業要件の緩和

4. 大学の創意工夫を求める　→「教育課程等の特例制度」の新設

基幹教員制度の導入

第8条　授業科目の担当

これまで

専任教員
- ・教育課程の編成等に責任を担う専任教員
- ・研究のみ行う専任教員
- ・地域連携活動等を行う専任教員

非常勤教員（一部の授業のみ担当する教員）

これから　：　クロスアポイント

大学院は除外

基幹教員

設置必要教員

◎教育課程の編成等に責任を担う
（教授会や教務委員会等のメンバー）
and
○主要授業科目を担当（教育研究専従者のみ）
or
○年間8単位以上の授業科目を担当
（学外者もOK、月給20万以上を想定）

4分の1ルール

設置要員（合わせて）

基幹教員以外の教員

但し、特定学部で1年に8単位以上の授業科目を担当する教員は基幹教員に算定できる

基幹教員に

4分の1ルール

非常勤でも基幹教員になれる

「学位プログラム」に係る教員の責任性を明確化した

主要授業科目＝大学のDP実施のための科目？

基幹教員の4つのタイプ

	区 分
aタイプ	専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの
bタイプ	専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aを除く）
cタイプ	専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）
dタイプ	専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）

＊休職、サバティカル制度等により一時的に大学を離れている場合は基幹教員に算入しない

大学設置基準の改正

大学の創意工夫が試される！

第21条	1単位の計算方法	授業の方法に応じ------おおむね15時間～45時間の範囲で大学が定める。 ＊厚生労働省関係の科目は制約あり(30時間以上---)
第27条	単位の授与	1の授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の大学の定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。
第32条	卒業の要件	124単位以上を修得するとともに、大学が定めることとする。 ＊定めなくともよい
第8条・11条	授業担当者	指導補助者(助手、研究員、学生)も一定の研修を経て授業の一部を担当できる。

科目の「自ら開設」原則の緩和＝連携開設科目
①連携大学間の協議会設置あるいは連携協定を締結(大学等連携推進法人でなくても可)
②既入学者に連携開設科目の継続開講を協定に明記
＊申請は令和4年11月8日～　令和6年度からの実施に向けて

教育課程等の
特例制度の活用も有り

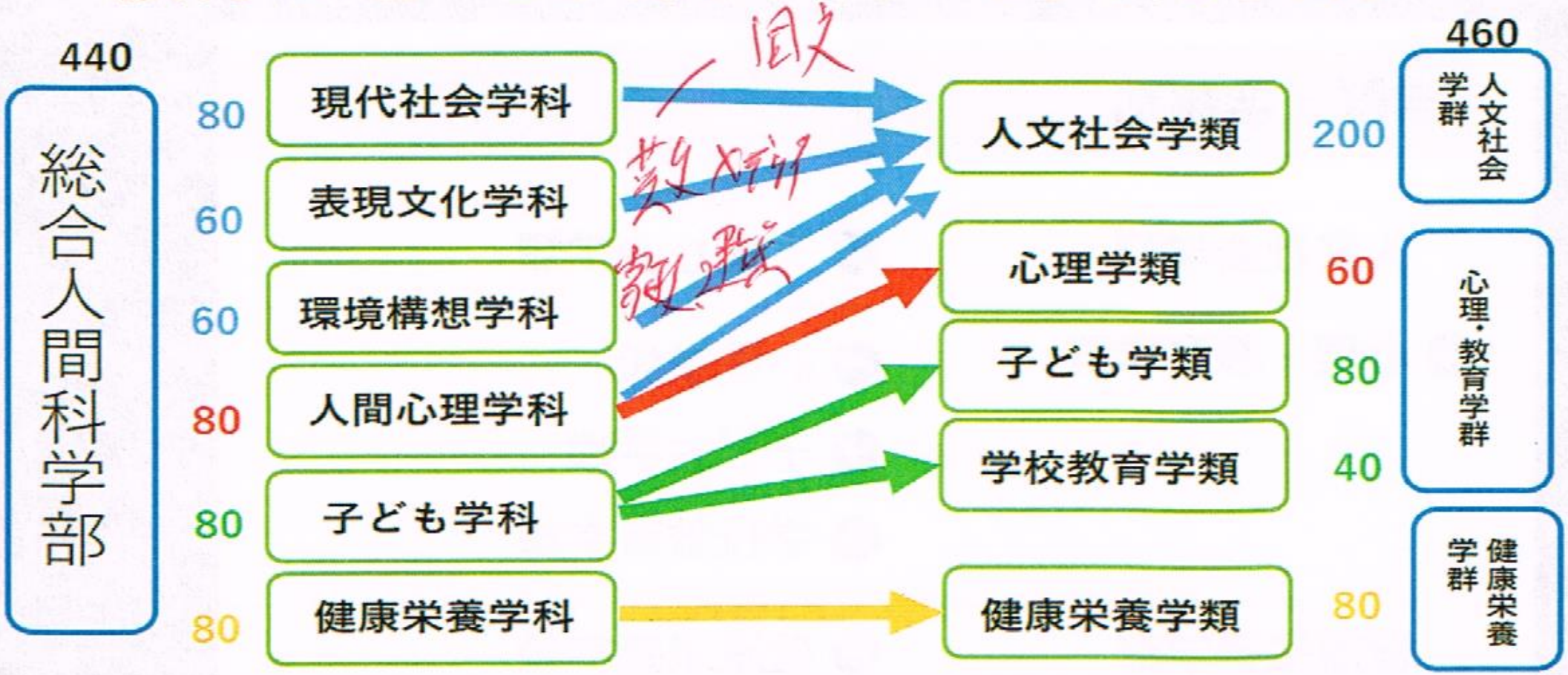
全国大学実務教育協会 第９回FD教職員実践研修会　9月24日(日)[於：アルカディア市ヶ谷]

FDの実践と課題

ー尚絅学院大学の実践ー

報告者：尚絅学院大学　総合人間科学系
人文部門　太田健児

教育の場：1学部6学科→3学群5学類へ



尚絅学院大学の現在（再掲）

学群・学類別	
人文社会学群	人文社会学類
心理・教育学群	心理学類
	子ども学類
	学校教育学類
健康栄養学群	健康栄養学類

各教員の本所属は「部門」

- 人文部門
- 社会部門
- 心理部門
- 教育部門
- 芸術・スポーツ部門
- 健康栄養部門

学内FD研修会（直近のFD）

◆9月5日（火）10:30～12:00　会場：　5E教室

「最適な学修・学生支援のためのアドバイザーの役割とASSESSMENTORの活用について」

・最適な学修支援の為のアドバイザーの役割について

・ASSESSMENTERの操作方法

・アドバイザー面談でのASSESSMENTERの活用方法

・授業評価アンケート入力・分析について

別資料あります！

※当日は実際にASSESSMENTERにログインをしていただき、画面を見ながら　操作していただきますので、PCをご持参ください。

◆9月12日（火）10:00～12:00　会場：5G教室

「大学の授業改善についての取り組み」

・講　　演：太田 健児先生：絶望的につまらない授業をどう克服するか？～先端の教授学習理論から～

・実践報告：佐々木 健太郎先生：コミュニケーションツールを活用した双方向授業

稲澤 努先生：「アクティブ・ラーニングとしての反転授業」～「文化人類学」を事例として～

前田 有秀先生：「学生と共に授業を作る」

つまらない講義の特徴

1)無駄話が多い

(無駄な言葉　無駄な話題等など)

2)難しいことを難しいまま教えている

3)学生の「学びのスタイル」への無頓着

「無駄話が多い」原因

(1)実質情報と背景情報との混在

← 様々な位相で混在

いかなる学術情報もこれら2つの要素で構成

実質情報（学習内容）

背景情報(コンセプト教育)
=学問分野の成立・歴史及びその周辺
研究や研究者へのリスペクト

2)難しいことを難しいまま教えている

(1)直観教育・実物教育の原義に無頓着

(2)学生のインプットに対する過大評価による

教育上のネグレクト

← 学生・院生の将来を潰す大問題

(3)「分からないこと」と「知らないこと」との混同

ジャン=ジャック・ルソー
Jean-Jacques Rousseau

シニフィエ
(受動態)←文法的には
=記号内容
(所記)←言語学用語では
言葉が指し示している対象

シニフィアン
(能動態)←文法的には
=記号表現
(能記)←言語学用語では
音と記号とによる表現

neko	cat	chat	Inu	dog	chien
(日)	(英)	(仏)	(日)	(英)	(仏)

但し、ジャック・デリダは異議を唱えている。
『声と現象』(La Voix et le phenomene, 1967)

A君　文字に興味がなく漢字は読めないけれど、どこへ行けばカブトムシやゼミがとれるか知っていて、蟻の巣を棒で深く掘り探ったりする。

B君　文字はすらすら読めて、一部のひらがなは書ける。おばあちゃんにたどたどしいながらも手紙も書く。図鑑が大好きで、虫や植物についても博識。でも本当の虫にはなかなか触れず、幼稚園で飼っている亀さんにも触れない

A君は行動派だけど、文字や数字は苦手。

B君は一定の知的関心を持っている。小学校でも勉強に適応するのが上手だろう。でも体験から得た知識はA君よりうんと少ない。

A君もB君も好奇心がある点で同じ。でも問題は中身。A君の好奇心は事物そのものに向かっている。B君は事物そのものではなく、事物の名称や事物についての知識に向かっている。事物そのものにを知りたいのではなく、事物について誰かがまとめてくれた知識を知りたがる。

実物！実物！私たちにこの言葉に力を与えすぎている、ということを私はいくら繰り返しても十分だとは思わない。
ルソー『エミール』から

シニフィエ
(受動態)ー文法的には
＝記号内容
(所記)ー言語学用語では
言葉が指し示している対象

シニフィアン
(能動態)ー文法的には
＝記号表現
(能記)ー言語学用語では
音と記号とによる表現

neko (日) cat (英) chat (仏)

inu (日) dog (英) chien (仏)

3)学生の「学びのスタイル」への無頓着

若者は次のどの選択肢を選ぶか？

a 平等分配

b 必要性分配

c 実績に応じた分配

d 努力に応じた分配

金間大介『いい子症候群の若者たち』東洋経済新報社2022年pp.43-56

教室内につまらない授業をいかに克服するか？

3)学生の「学びのスタイル」への無頓着

▲浮いたらどうしよう/自分のせいにされたらどうしよう

▲場を乱さないために演技する

▲競争より協調、協調より同調

▲意識高い系すら避ける

▲一番怖いイベントは「自己紹介」

▲コミュニケーションハラスメントだ！

▲自分が目立って褒められるのが怖い

▲何かの決め手はインフルエンサー

▲社会貢献とは身近な人たちに承認してもらうこと

金間大介『いい子症候群の若者たち』東洋経済新報社2022年259p.

参考文献(一部紹介)

○E.F.バークレイ他(著)東京大学教養教育高度化機構アクティブラーニング部門,他(監訳)(2022)『学習評価ハンドブックーアクティブラーニングを促す50の技法ー』東京大学出版会.

○高宮正貴,杉本遼(著)(2022)『道徳的判断力を育む授業づくりー多面的・多角的な教材の読み方と発問』北大路書房.

○大谷則子(2022)『「いつもと違う」と感じ、思わず行う行為は実践の知なのか』日本看護協会出版会.

○川奈るり(2020)『「わざ」を伝える』日本看護協会出版会.

○ジョン・ハッティ,クラウス・ティーラー(著)原田信之,他(訳)(2021)『教師のための教育効果を高めるマインドフレーム:可視化された授業づくりの10の秘訣』北大路書房.

○H.リン・エリクソン,他(著)遠藤みゆき,ベアード真理子(訳)(2020)『思考する教室をつくる概念型カリキュラムの理論と実践』北大路書房.

○稲垣忠(編著)(2019)『教育の方法と技術IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』北大路書房.

○中井俊樹,他(編)(2018)『授業設計と教育評価』医学書院.

○安藤輝次(2018)『持続的な学びのための大学授業の理論と実践』関西大学出版部.

○三谷なほみ・東京大学CoREF・河合塾(2016)『協調学習とは:対話を通して理解を深めるアクティブラーニング型授業』北大路書房.

○安藤輝次(2018)『持続的な学びのための大学授業の理論と実践』関西大学出版部.

○松下佳代(2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房.

○溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂.

○堀公俊(2014)『アイデア発想 フレームワーク』日本経済新聞出版社.

○G.ウィギンズ,他(著)西岡加名恵(訳)(2012)『理解をもたらすカリキュラム設計ー「逆向き設計」の理論と方法ー』日本標準.

○L.ディー・フィンク(著)土持ゲーリー法一(監訳)(2011)『学習経験をつくる大学授業法』玉川大学出版部.

今後の課題～学生の学びの最適化に向けて～

1）教員自身がアドバイザーの役割を十全に果たし、ASSESSMENTORを縦横無尽に使いこなすこと

2）個々の授業とDP・CP・AP・アセスメントとの有機的な一体性
（ツリー・カリキュラムマップの精密化　その前提としてのシラバスの再設計）

3）個々の授業そのものの充実
（学生に何を教育したのか？を絶えず自問自答する）

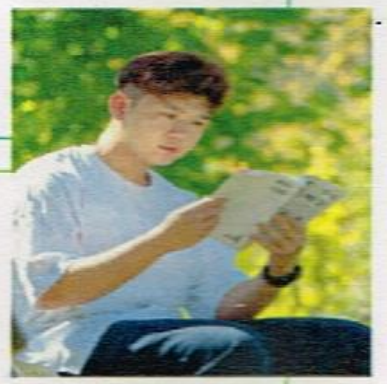
Je vous remercie de votre attention.

9つの力

1 共感力
2 倫理観・社会的責任感
3 コミュニケーション能力
4 知識・技能
5 批判的思考力・創造的思考力
6 グローバルな視野・地域的志向
7 自己管理能力
8 協働力
9 挑戦する力

＋ **人文社会学類**
- 複眼的視点で現代社会の事象を読み解く力
- 他者と協働し実践する力
- 専門的知識で課題解決の道筋を提言・表現する力
- 多様性を理解し、自己の見方を相対化する力

＋ **心理学類**
- 心理学の基本的知識
- 心に関する問題を発見する力
- 心に関する問題を分析する力
- 心に関する問題を解決する力



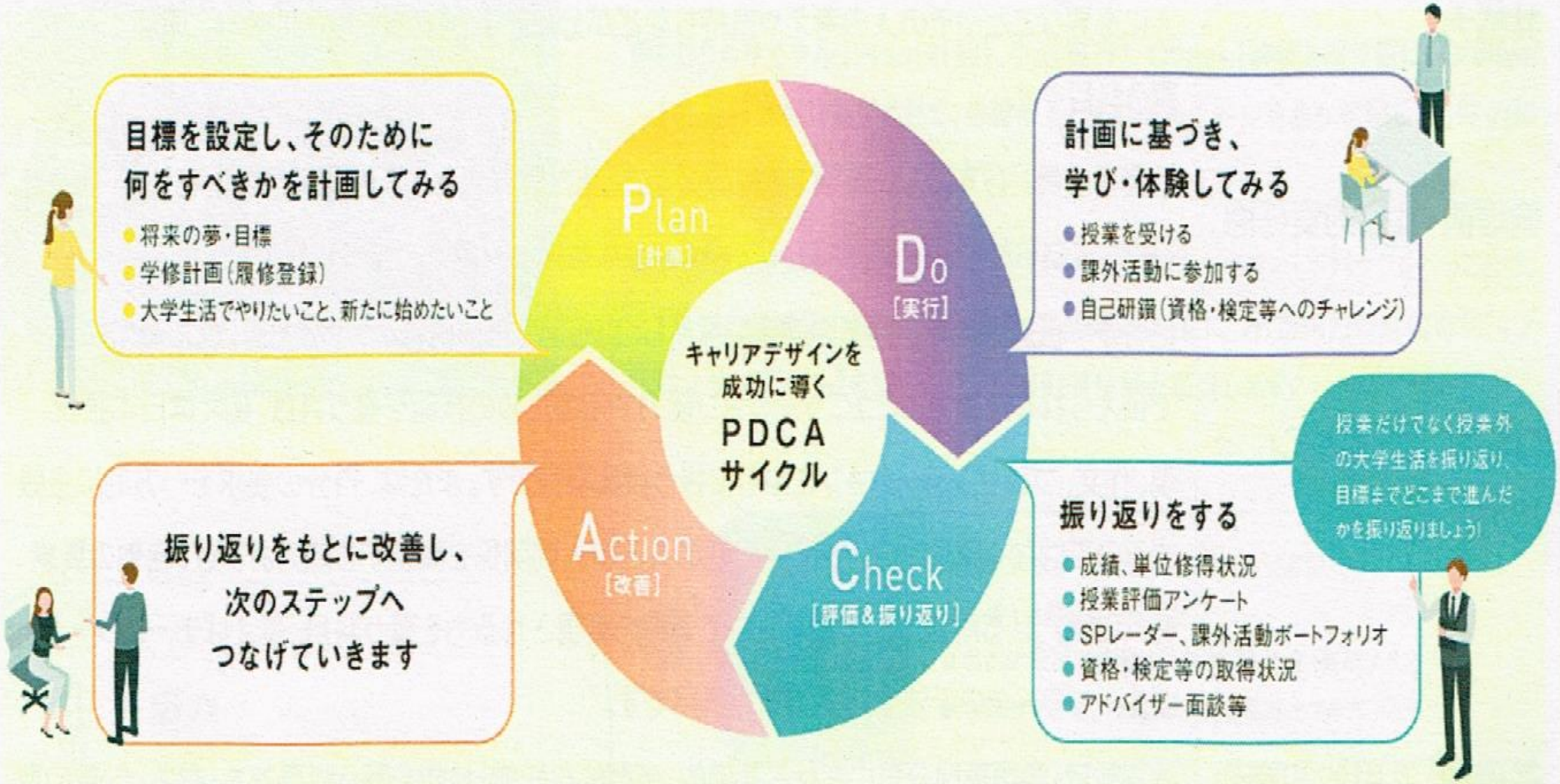
＋ **子ども学類**
- 子どもを理解する力
- 保育・教育的実践力
- 表現力
- 支援できる力

＋ **学校教育学類**
- 児童・生徒の科学的・総合的理解力
- 高度な教育理論の理解力
- 教育実践力
- 教育現場の課題解決に結びつく人間関係調整力

＋ **健康栄養学類**
- 専門的技術の獲得、展開・発展させる力
- 課題発見と解決能力
- 最新情報・技術を受容できる能力
- 望ましい食生活を提案・支援・評価できる能力

✧ 大学で9つの力を身につけるために～PDCA サイクルをまわしていこう！～

Plan【計画】⇒Do【実行】⇒Check【評価&振り返り】⇒Action【改善】⇒次の Plan へ…



✧ PDCA をまわすためのツール、テスト、アンケート

学びの計画と振り返り

～目標に向けて、どんな大学生活を送ろう？～

将来の夢や目標をもとに、半期ごとの計画を立て、その振り返りを行います。定期的に PDCA を確認するためのツールです。

授業評価アンケート

～授業を受けて、科目が求めているレベルを達成できたか自己評価～

受講した科目について、学生と科目担当者で成果や改善点を共有し、よりよい授業の実現を目指すための重要なアンケートです。自分自身の学びの達成度についての自己評価も行います。

活動記録

～どんな課外活動に取り組んだ？～

授業以外のあらゆる活動について、定期的に記録していきます。

PROG テスト

～社会で求められる能力・態度・志向を測り、成長を確認～

「リテラシー」知識を活用して問題を解決する力＋「コンピテンシー」人と自分にベストな状態をもたらそうとする力を測るテストです。

SP レーダー

～1年間を振り返り、大学で身につく力を自己評価～

1年に1度、大学での様々な学びを多角的に詳しく振り返り、自分の強みや弱みの発見につなげます。

Assessmentor

上記の記録をまとめ、積み重ね、<u>学修の成果を可視化するシステム</u>です。

✧ 大学で9つの力を身につけるための流れ

◆1年間の流れ

4 月
前期オリエンテーション
◆将来の夢・計画
2 年次以降
◆SP レーダー

前期）授業評価アンケート

1・3 年次前期
◆PROG テスト
・受検
・結果確認
・解説会

9 月
後期オリエンテーション
◆前期振り返り
◆活動記録
◆後期計画

後期）授業評価アンケート

2月
◆後期振り返り
◆活動記録
入力

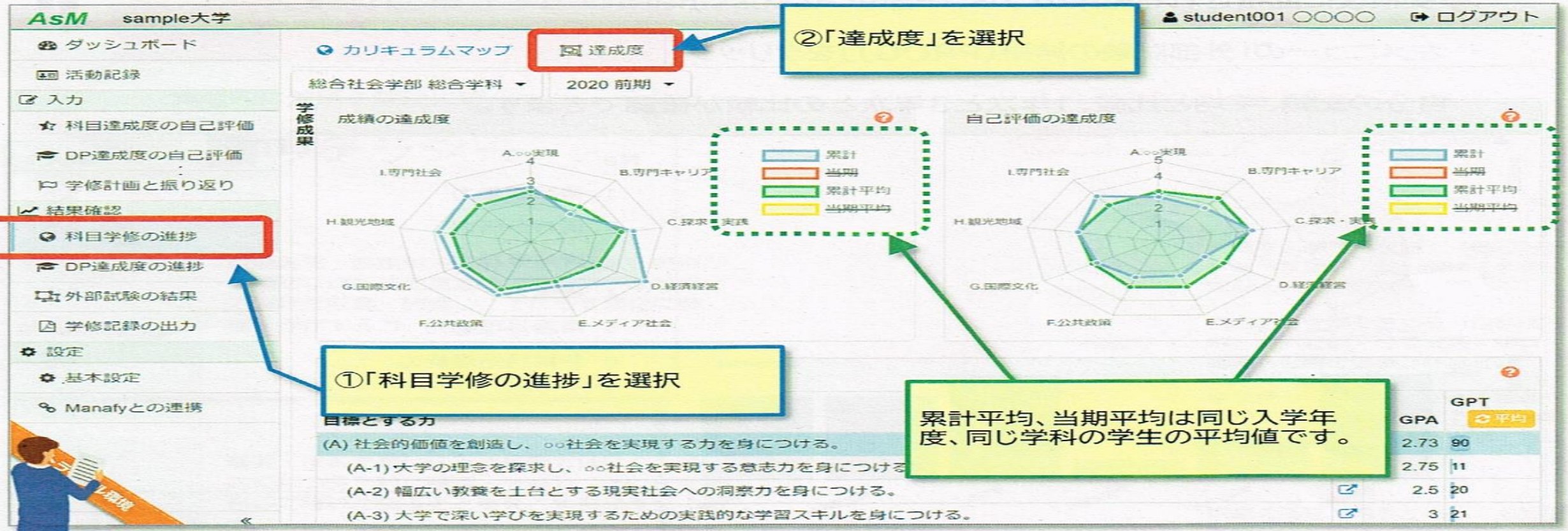
年間2回程度のアドバイザー面談（時期や回数：学類やアドバイザーによる）

このサイクルを 4 年間継続して、
目標やキャリア実現に向けてステップアップ！

5.自分の科目達成度を確認してみよう

- ✧ 履修した科目の成績の面から、どのような力が身についたのかを確認します。
- ✧ 履修ガイドや各科目のシラバスに掲載されている「学修目標」と、皆さんの成績をかけあわせたレーダーチャートです。どのような力が身についているのか確認してみましょう。

※単位数や卒業見込等について確認する場合は、Campusmate-J を使います。



👉チャートで自分の力を確認する

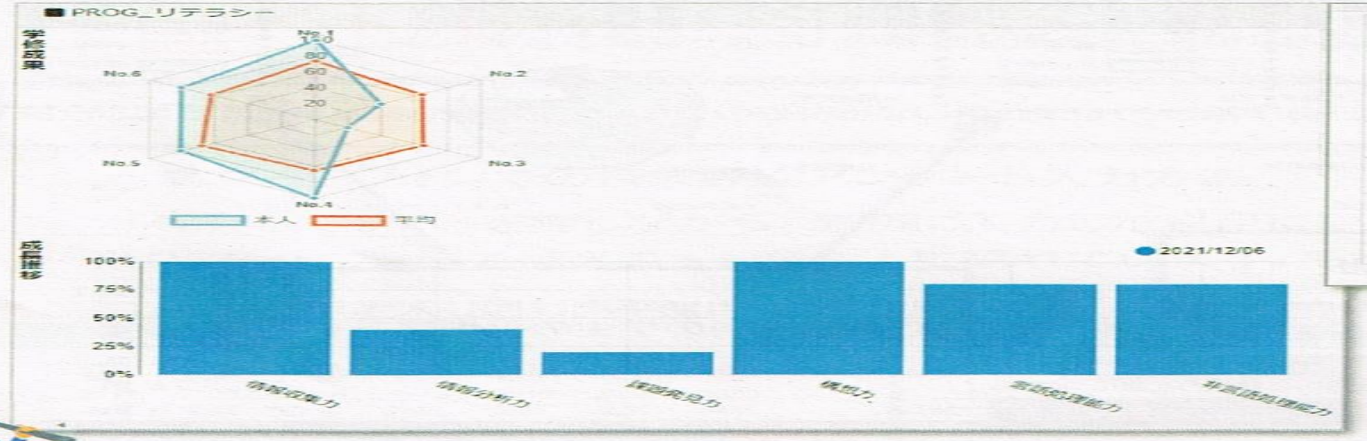
6.【外部試験の結果】PROG テストの結果を確認しよう

- ✧ PROG テストとは「リテラシー」知識を活用して問題を解決する力＋「コンピテンシー」人と自分にベストな状態をもたらそうとする力を測るテストです。
- ✧ 自分の現在の強みと課題を知り、今後の大学生活で強化するコツを確認します。
- ✧ 1年次と3年次に2回受検し、どのくらい成長したかを確認できます。

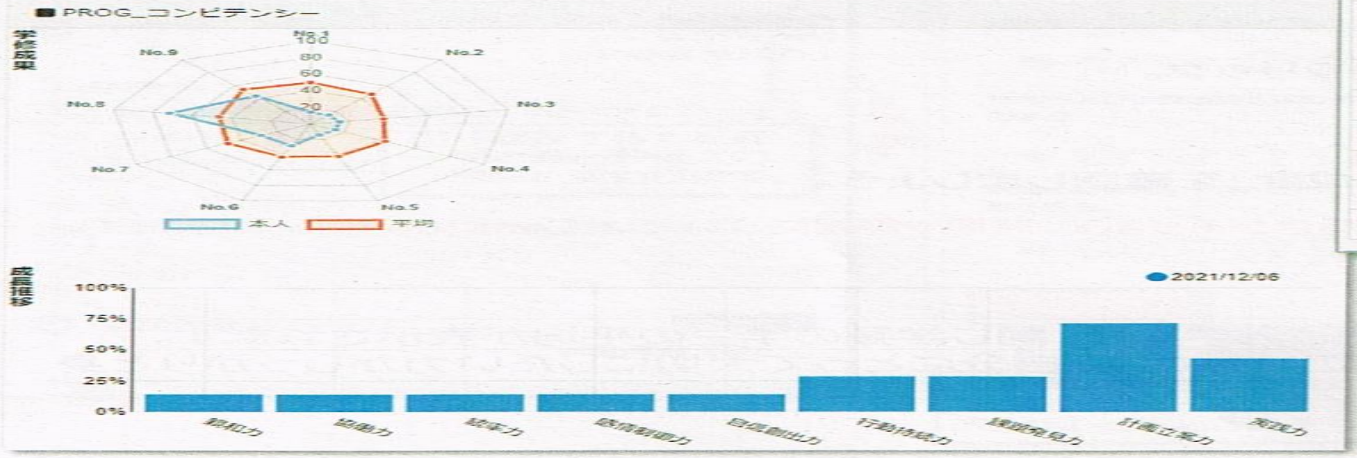
👉受検後に配布される結果のうち、一部が Assessmentor にも登録されます。

・ 左メニューの「外部試験の結果（PROG）」をクリック。

自分の記録、平均と比較、1年次と3年次との比較が確認できます。



No		本人
1	情報収集力	5/5
2	情報分析力	2/5
3	課題発見力	1/5
4	構想力	5/5
5	言語処理能力	4/5
6	非言語処理能力	4/5



No		本人
1	親和力	1/7
2	協働力	1/7
3	統率力	1/7
4	感情制御力	1/7
5	自信創出力	1/7
6	行動持続力	2/7
7	課題発見力	2/7
8	計画立案力	5/7
9	実践力	3/7

詳細な結果については個別に配布されるほか、PROG のマイページで確認できます。詳細は PROG 解説会で案内します。

実践的に問題を解決に導く力

リテラシー

情報収集力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報元を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力
情報分析力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的にかつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造をとらえ、本質を見極める力
課題発見力	様々な角度、広い視野から現象や事実をとらえ、それの背景に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力
構想力	様々な条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処方法を構想する力

周囲の環境と良い関係を築く力

コンピテンシー

対人基礎力	親和力	円満な人間関係を築く（親しみやすさ・気配り・対人興味・多様性理解・人脈形成など）
	協働力	協力的に仕事を進める（役割理解、連携行動・相互支援・相談・指導・他者の動機づけなど）
	統率力	場を読み、目的に向かって組織を動かす（意見を主張する・創造的な討議・意見の調整・交渉・説得など）
対課題基礎力	課題発見力	問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う（情報収集・本質理解・原因分析など）
	計画立案力	問題解決のための効果的な計画を立てる（目標設定・シナリオ構築・計画評価・リスク分析など）
	実践力	効果的な計画に沿った実践行動をとる（実践行動・修正・調整・検証・改善など）
対自己基礎力	感情制御力	気持ちの揺れをコントロールする（セルフアウェアネス・ストレスコーピング・ストレスマネジメントなど）
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する（独自性理解・自己効力感・楽観性・機会による自己変革など）
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける（学習行動を含む）（主体的行動・完遂・良い行動の習慣化など）

9.【SP レーダー】 ＳＰ レーダーの結果を確認しよう

- ✧ SPレーダーを入力することで、1～4年次までの自分の成長や、同じ学年・学類の学生の平均と自分の状況を比較するレーダーチャートが確認できます。
- ✧ 客観的な指標としての、科目達成度（成績×DP結果）、PROGテストと共に、自己評価のSPレーダーの結果を比較し、自分の強みや課題、今後伸ばしたい力についてディプロマ・ポリシーを踏まえて確認しましょう。

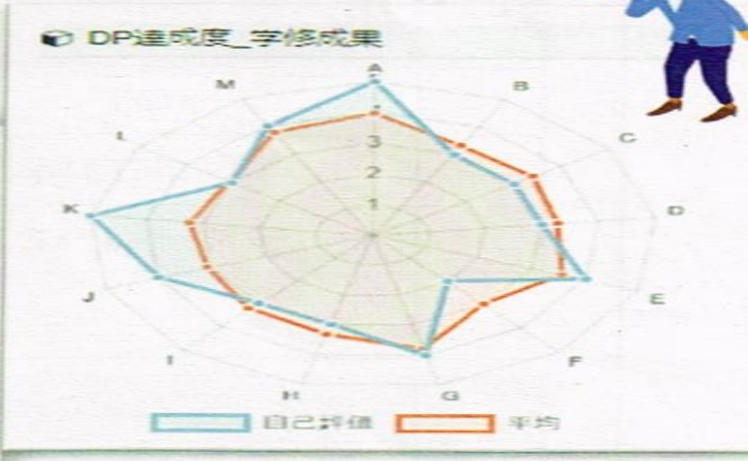
SP レーダーの結果を確認する

- 入力
  - 授業評価アンケート
  - SPレーダー入力
  - 学びの計画と振り返り
- 結果確認
  - SPレーダー結果確認
  - 外部試験の結果(PROG)

「SP レーダー結果確認」を選択

数値とレーダーチャートで
自己評価と平均を比較しよう

		自己評価	平均
A	【メンタリティ】 共感力	5.00	3.96
B	【メンタリティ】 倫理観、社会的責任感	3.00	3.30
C	【メンタリティ】 コミュニケーション能力	3.00	3.41
D	【知識・技能と教養】 専門分野を越えた基礎的・汎用的知識やスキル	3.00	3.30
E	【知識・技能と教養】 批判的思考力・創造的思考力	4.00	3.56
F	【知識・技能と教養】 グローバルな視野・地域的志向	2.00	2.96
G	【行動力】 自己管理能力	4.00	3.78
H	【行動力】 協働力（チームワーク、リーダーシップ）	3.00	3.33
I	【行動力】 挑戦する力	3.00	3.22
J	【人文社会学類で身につける力】 横断的視点で、現代社会の事象を読み解く力	4.00	3.08
K	【人文社会学類で身につける力】 他者と協議し実践する力	5.00	3.23
L	【人文社会学類で身につける力】 専門的知識で課題解決の道筋を提言・表現する力	3.00	3.08
M	【人文社会学類で身につける力】 多様性を理解し、他者と協働し実践する力	4.00	3.77



1．メンタリティ

1－1　共感力（自分に誇りを持ち、他者との違いを理解した上で、他者を尊敬する力）

レベル4	相手の感情、思考、行動を理解し、その人の立場に立って配慮した行動を取ることができる。
レベル3	相手の感情、思考、行動を理解することができる。
レベル2	相手の感情、思考、行動を理解しようと努力できる。
レベル1	相手の話を聞くときに、目線を合わせるなど、向き合う態度をとることができる。
レベル1一歩手前	

根拠となる具体例　a（授業）・b（課外）・c（学外）・d（その他）

愛島東部仮設住宅での傾聴ボランティア。仮設に住む方々が笑顔で話してくれる中で、自分は皆さんに何ができるか考えた。できることとして、毎月仮設に通い、傾聴ボランティアを行った。

【レベル1・b（課外）の例】
同じクラブに所属している１年生の元気な留学生がメンバーと違う行動をとるようになった。クラブの皆は理解できないようだが、彼には何か違う行動をとる理由があるかもしれないと思い、私は彼に困ったことがあるのかなど聞き、直接話してみることにした。

その能力はどこで身についたと思いますか？ a.授業（「〇〇〇」）b.課外（　　）c.学外（　　）d.その他（　　）

1－2　倫理観、社会的責任感

レベル4	自己の良心と社会の規範やルールに従って適切に行動でき、自ら積極的に提案したり関与したりすることができる。
レベル3	自己の良心と社会の規範やルールに従って適切に行動でき、他者にも呼び掛けたり促したりする行動をすることができる。
レベル2	自己の良心と社会の規範やルールに従って適切に行動することができる。
レベル1	決められた社会の規範やルールに従って行動することができる。
レベル1一歩手前	

根拠となる具体例　a（授業）・b（課外）・c（学外）・d（その他）

学校や社会での規則やマナーを守り、責任ある行動をとることができる。選挙においても、新聞などで情報を収集した上で投票し、友達にも行くようにすすめた。
授業でいじめ問題について討論に参加し、真剣にその解決方法を考えた。

【レベル2・d（その他）の例】
バス通学の際、乗車マナーを守り、また友人にも働きかけた。

その能力はどこで身についたと思いますか？ a.授業（「〇〇〇」）b.課外（　　）c.学外（　　）d.その他（　　）

２．知識・技能と教養

２－１　学部共通・学科専門分野における基礎的な知識・技能

レベル４	修得した知識に新たな情報も加え、社会的・公共的な目的のために活用する能力を身につけた。
レベル３	修得した様々な知識を総合的に理解し、その関連を説明できる。（口頭または文章含む）
レベル２	基礎的・専門的な知識・技能を理解し、自分の言葉で説明できる。（口頭または文章含む）
レベル１	学びに必要な基礎的な知識・技能をおおよそ理解した。
レベル１一歩手前	

根拠となる具体例　(a)（授業）　・　b（課外）　・　c（学外）　・　d（その他）

完全に理解したとは言えないが、履修登録した科目のほとんどの単位を取得できた。

【レベル３・a（授業）の例】
「ウェルネス科学論」「健康と栄養」「心の科学」などの授業を通して得た知識をもとに、生涯を通した健康について家族と話し合った。

その能力はどこで身についたと思いますか？　(a)授業（　「〇〇〇」　）b. 課外（　　）c. 学外（　　）　d. その他（　　）

２－２　批判的思考力・創造的思考力

レベル４	課題に関する意見などに対して、自分の偏見も配慮しながら批評ができ、独自の仮説・アプローチで検討する、または新しい構想や提案を行うことができる。
レベル３	課題に関する意見・論点、あるいは資料・情報について、事実を確認した上で、それぞれの意見や論点に対して自ら比較分析しながら批評ができる
レベル２	課題に関する意見・論点、あるいは資料・情報について、自ら事実を検証し、他人の意見や論点をある程度整理できる。
レベル１	課題に関する意見・論点、あるいは資料・情報について、客観的な事実と意見を明確に区別できる。
レベル１一歩手前	

根拠となる具体例　(a)（授業）　・　b（課外）　・　c（学外）　・　d（その他）

ある政策について評価することが授業の課題として出されたが、それに関する背景や関連する項目を調べる事によって、多方面から理解する事ができた。これをまとめ、グループ発表を行ったがグループ発表した後に、他の学生や先生に褒められた。

【レベル１・a（授業）の例】
基盤演習で東京オリンピック（2020年）開催における「地方自治体の費用負担」問題について調べることになり、新聞数社の社説を読み比べ、以前の取り決めを変えようとすること、またその一連の動きの経緯を把握した上で、それぞれの主張の違いを理解できた。

その能力はどこで身についたと思いますか？　(a)授業（　「〇〇〇」　）b. 課外（　　）c. 学外（　　）　d. その他（　　）

＜在学生の皆さま＞SPレーダー（Web）の利用方法

1.利用フロー（学生版）

【活動年度中随時】

〔1〕課外活動ポートフォリオの入力

参加した課外活動について身についた力を記録します。

【CoursePower】
1-1.資料教材
1-2.アンケート教材

【年度末(~3月)】

〔2〕SPレーダーの入力

前年度に入力した課外活動ポートフォリオと学修の成績を基に自身の活動を振り返り、記録します。

【CoursePower】
2-1.アンケート教材

【新年度(～6月)】

〔3〕アドバイザー・クラス担任面談の実施

アドバイザー・クラス担任が、面談後フィードバックを入力

【CoursePower】
2-2.フィードバック教材

【新年度(～6月)】

〔4〕SPレーダー最終結果の確認

自身の振り返り結果と、教員からのフィードバックが反映されたレーダーチャートを確認します。

【CoursePower】
2-3.フィードバック教材

【翌年度】

〔5〕今後の活動・履修計画を検討

2.マニュアルについて

CoursePowerを使用する以下の3つのフローはそれぞれマニュアル（操作手順書）があります。

〔1〕課外活動ポートフォリオの入力

〔2〕SPレーダーの入力

〔4〕SPレーダー最終結果の確認

2021年度は年度途中から運用開始のため、右の表に沿って運用を開始します。

	2020年度分	2021年度分	2022年度分
課外活動ポートフォリオ	―	2021年度後期	2022年度通年
SPレーダーWeb	2021年度後期	2021年度末	2022年度末

10.ディプロマサプリメントの授与

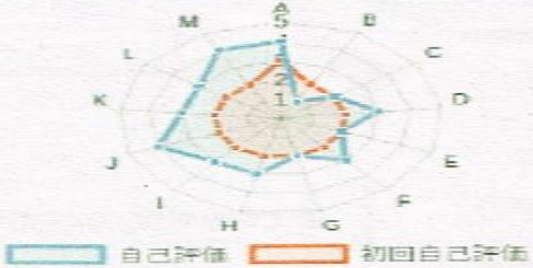
✧　4年間にわたって蓄積してきた内容は「ディプロマサプリメント」として卒業時に授与されます。成績をもとにした「大学で身につけた力」のレーダーチャート、SP レーダー結果、PROG テストの結果などを踏まえて授与する予定です。

※レイアウトや掲載事項は検討中のもののため変更になることがあります。

■ SPレーダーのまとめ

「SPレーダー」は、皆さんが大学生活で得たことを見える化するために、これまで記入をしてきました。
学生が卒業までに求められている目標に対する到達状況を確認するための重要な記録です。
結果を確認し、自分自身の成長や大学で身につけた力を具体手時期に振り返ってみましょう。

<レーダーチャートの見方>
皆さんが最初に回答した内容と、4年次の振り返りで回答した内容を比較し、自身の成長を確認できます。
<グラフの見方>
1~4年次の回答の推移を確認できます。



		自己評価	初回自己評価
A	【メンタリティ】 共感力	4.00	3.00
B	【メンタリティ】 倫理観、社会的責任感	1.00	2.00
C	【メンタリティ】 コミュニケーション能力	2.00	2.00
D	【知識・技能と教養】 専門分野を越えた基礎的・汎用的知識やスキル	3.00	2.00
E	【知識・技能と教養】 批判的思考力・創造的思考力	2.00	2.00
F	【知識・技能と教養】 グローバルな視野・地域的志向	3.00	2.00
G	【行動力】 自己管理能力	2.00	2.00
H	【行動力】 協働力（チームワーク、リーダーシップ）	3.00	2.00
I	【行動力】 挑戦する力	3.00	2.00
J	【人文社会学類で身につける力】 複眼的視点で、現代社会の事象を読み解く力	4.00	2.00
K	【人文社会学類で身につける力】 他者と協議し実践する力	3.00	2.00
L	【人文社会学類で身につける力】 専門的知識で課題解決の道筋を提言・表現する力	3.00	2.00
M	【人文社会学類で身につける力】 多様性を理解し、他者と協働し実践する力	4.00	2.00

●1年1月　●2年1月　●3年1月　●4年1月

【目的・狙い】	テーマごとに視野を広げ、考えを深める
【設定時間】	（ここでは 180 分間に設定（情報交換会を除く） ）

【進め方のステップ】 時 分 ～ 時 分			実施上の留意事項
時刻	分		
13：00	90	グループ内発表と討議 ①FD 事例報告に対する意見交換 ・メンバー全員が交代で発表 ②グループメンバーの事例発表 ③テーマをめぐる意見交換 ・発表に関する質問や確認 ・参考になったこと（面白い取り組み） ・今後取り組みたいこと	
14：30	30	報告準備および休憩 ①発表内容をまとめる ・工夫した取り組み ・事例研究の中で見えてきた課題と解決策 ②発表者の選出	
15：00	60	全体発表 テーマ１ 「FD・SD 運営上の課題」 テーマ２ 「シラバス作成と授業デザイン」 テーマ３ 「学修成果の可視化」 ・発表時間：各チーム 15 分程度×3 チーム ・講師による講評 10 分	

FD・SD 運営上の課題

課題：年度当初に年間計画を立てる

○年度最初に年間 FD 計画を立てるためにどうしたらいいか

・例年決められた分野で分担？

・前年度末に内容を学内に公募？

・その他

○その他

・1 年間の回数　---　本学：全体が 20 回、学科別で 2～3 回

・外部講師と内部講師の割合　---　本学：内部教員が 90%以上（コロナ禍の影響）

・内容　---　本学：学生支援、高大連携、学生募集、研修報告、教育研究など

■令和4年度 FD・SD研修会計画（金城大学短期大学部）【案】

令和5年2月28日現在
自己点検・評価室

【目的】
大学の授業内容および方法の改善を図るとともに、教育研究に関する諸問題の知識を深め、教育スキル向上を目標とした研修会を実施する。

※出席者数（講師除く）は短大教員と職員のみ加算

No	内容・テーマ	日時	学科	会場	担当者	詳細	備考
1	学生募集に関する現状と課題～金城大学短期大学部の強みとは～	4月19日（火）14:40～ ※対面・オンラインのハイブリッドにて開催	全	H207 オンライン	入試広報部	①北陸三県や分野別の学生募集の状況、金城大学の学生募集の現状と課題分析 講師：株式会社進研アド　営業本部大阪支社企画営業2部　部長　岸本　直哉氏 ②金城大学短期大学部特有の強み（教職員の共通認識に向けて） 講師：入試広報部長　矢澤　建明	出席者数30人
2	学生に意識付けをさせる評価のフィードバック	6月21日（火）14:40～ 短大教授会終了後	全	H207	新井先生	フィードバックの意味と重要性を確認し、授業運営における効果的なフィードバックとは何かを考える。 授業形式ごとの実践例報告と共有。	出席者数31人
3	学科別FD・SD研修会	6月21日（火）15:30～16:20 全体FD研修会終了後	ビ	A135	瀬戸先生	学修成果と学修評価シートの点検	出席者数7人
4	第1回学生募集、情報発信に係る広報戦略	6月21日（火）15:30～17:30 No.2研修会終了後	全	H207	ブランドマネジメントプロジェクト	「金城大学短期大学部とは？」を教職員や学生が同じ言葉で語れることを目指す 講師：発創デザイン研究室　冨永　良史氏	出席者数26人
5	部署間における学生データの連結から得られたデータの処理結果報告	7月19日（火）14:40～ 短大教授会終了後	全	H207	藤元先生	入試広報部、教務部、就職進学支援部で別々に管理されている学生個人データを連結して様々な角度からデータ処理を行い、今後の自己点検・評価に利用できる指標などについて検討した結果を報告する	出席者数30人
6	学科別FD・SD研修会	8月1日（月）15:00～17:00	幼	H102	米川先生 村上先生 柴田先生	幼児教育学科の新構想についての戦略及び退学者の分析と対策について	出席者数9人
7	学科別FD・SD研修会	8月19日（金）10:00～12:00	美	A214	檀田先生 新井先生	前期授業の振り返り	出席者数5人
8	高大連携合同（FD・SD）研修会	8月26日（金）14:00～15:30	全	H207	進研アド（Between編集者）	探究学習と高大接続	出席者数28人
9	学科別FD・SD研修会	9月6日（火）	幼	H211	三浦先生 柴田先生	各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPAの分布から学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する	出席者数25人 ※非常勤含む
10	学科別FD・SD研修会	9月16日（金）15:00～	美	A214	新井先生	各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPAの分布から学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する	出席者数6人
11	大短合同研修会	10月11日（火）16:30～	全	H207	ICC	個人情報に関する研修会	出席者数20人
12	山形大学「IR履修証明プログラム」を終えて	10月18日（火）14:40～ ※短大教授会終了後	全	H207	瀬戸先生	「共分散比を用いた入試分析について」などをフィードバック	出席者数31人
13	学科別FD・SD研修会	10月25日（火）13:00～14:30	ビ	A135	瀬戸先生 井戸先生	各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPAの分布や授業アンケートから学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する	出席者数9人
14	第2回学生募集、情報発信に係る広報戦略	10月25日（火）15:00～17:00	全	A213	ブランドマネジメントプロジェクト	「建学の精神」の現代語訳から考える「高校生」「高校の先生」「保護者・保証人」「地域社会」「教職員」への約束（クレド）の策定に向けて 講師：発創デザイン研究室　冨永　良史氏 対象：学生（シャイニーリーダーズ）含む	出席者数人
15	大学コンソーシアム石川 FD/SD研修会	10月31日（月）15:30～17:00 ※オンライン	全		新井先生 和田先生	「コロナ禍における金城美術のICTの活用事例の紹介」	出席者数人
16	FD教職員実践研究会参加報告「全員がFD講師になれる」	12月20日（火）14:40～ ※短大教授会終了後	全	H207	新井先生	一般財団法人全国大学実務教育協会　第8回「FD教職員実践研究会」に参加した内容を報告する。「FDは第二ラウンドにはいった」「授業見学というFD」など	出席者数30人
17	嘉悦大学×金城大学×金城大学短期大学部共同FD研修会	12月21日（水）15:00～16:30 ※オンライン	全			「3大学における学修データと改善行動：授業評価アンケートを中心として」 講師：嘉悦大学　白鳥　成彦　教授（IR・データインフラ推進室長） 崎田　千夏　氏（IR・データインフラ推進室） 金城大学　永井　将太　教授（IR委員長） 金城大学短期大学部 瀬戸　就一　教授（IR室長）	出席者数人
18	第8回教授会　IR室報告	1月17日（火）14:45～ ※オンライン	全		瀬戸先生	・令和3年度 後期授業アンケート結果 ・令和4年度 保証人アンケート結果 ・2022年度 短期大学卒業生調査結果（一般財団法人大学・短期大学基準協会）	出席者数 30人
19	学生・保護者対応に活かすカウンセリング技法を学ぶ	2月21日（火）14:40～16:00	全	H206	学生部	様々な学生や保護者への対応が求められている。より良い対応の参考としてカウンセリング講座を行う。 講師：社会福祉学部　渡邊　亮士　講師	出席者数 27人
20	ティーチング・ポートフォリオ（2021年度）の共有	3月6日（月）14:40～ ※短大教授会終了後	全	H206	学長	2021年度ティーチング・ポートフォリオについて共有する。	出席者数人
21	学科別FD・SD研修会	3月14日（火） 学科会議終了後	ビ	A135	藤元先生 井戸先生 瀬戸先生	各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPAの分布や授業アンケートから学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する	出席者数人
22	学科別FD・SD研修会	3月14日（火）	美	A214		各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPAの分布や授業アンケートから学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する	出席者数人
23	金城大学・短大合同研修会及び専任・非常勤合同研修会	3月22日（水）13:00～15:00	幼	H211		「大学で子育て支援を行う意義を考える（その2）」 赤塚　徳子　氏（愛知文教女子短期大学幼児教育学科准教授） 金城大学　三谷　靖子　准教授	出席者数人
24	学科別FD・SD研修会	3月22日（水）15:00～16:30	幼	H211	三浦先生 村上先生	各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか、GPAの分布や授業アンケートから学習成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）する	出席者数人

【学位プログラムレベル】
各学科の教育課程における卒業要件の達成状況および資格取得状況から、教育課程全体通した学習成果の達成状況を評価する

【科目レベル】
シラバスに示した達成・到達目標に対する評価や授業アンケート等の結果から、科目の学習成果の達成状況を評価する

ＦＤ・ＳＤ運営上の課題

１　本学におけるＦＤ研修会運営上の課題（短所）

(1)講演会スタイルの研修会が多い。
(2)テーマ設定に工夫が必要。
(3)教員の研修を受ける姿勢の面で、主体性が乏しく受け身であるように感じる場面がある。

２　本学のＦＤ研修会運営上の成果（長所）

(1)教員の出席率は良い。コロナ禍でもオンライン参加。非常勤教員もオンラインの場合は多く参加。
(2)アンケートへの回答についても、率直な感想・意見を述べる傾向が強い。
(3)授業改善や、学生理解についての研修をしたいという声が多く聞こえる。

３　近年のＦＤ研修会のテーマ

【令和２年度】
第１回：キャンパスライフに埋め込まれた学習
　　～何が入社後の適応・活躍をもたらすのか？～
第２回：遠隔講義の事例紹介（提案者３人による具体的な授業例を示した）
【令和３年度】
第１回：コロナ禍における教育現場の感染症対策について
第２回：研究費の不正使用防止のためのコンプライアンス
【令和４年度】
第１回：学生相談室からみた学生の現状と支援について
　　（保健センター職員による講演と実例の紹介）
第２回：初年次教育について
　　（専任教員３人による提案とパネルディスカッション・司会はＦＤ委員長）
　　※別紙資料参照。
【令和５年度】
第１回：教学マネジメント改革と内部質保証システムの構築
　　（清水一彦先生によるご講演）

に、意欲的に研修に取り組むことができた。（ＦＤ委員会で委員長が提示したテーマ例から、選んだテーマであった。）
30代・40代の若手専任教員３人が、豊富な授業実践例を元にして報告をした。聞き手も同じ大学に身を置く教員の一人として、学生の学びの実態や学び方の工夫について、共感的に受け止めていた。
３人の教員によるパネルディスカッション形式の研修会としたことで、フロアから様々な意見を引き出すことができた。その反応の良さ・手応えがあったことで、提案者自身も終了後に「報告者をやってよかった」と言える研修会となった。研修振り返りアンケートの記述内容にも、好意的な文章が多く見られた。（別紙資料参照）
ＦＤ委員長自らが、ねらいをもって司会進行を担ったことにより、ＦＤ委員会として「目指したい研修会の姿」を具現化することができた。

【課題】
アンケート感想を見ると、少数ではあるが「批判するだけで、建設的な意見を述べない」という姿が見受けられる。
◎教員の意識改革が必要。
パネルディスカッション形式には概ね好評だったが、「授業研究」「授業公開」については、強い抵抗感を抱く教員が存在する。今年度中に、まずは「授業公開」を実現したい。
ＦＤ研修とＦＤ研修の連携がない。ＦＤ研修会に事務職員の一部が参加するという程度にとどまっている。

＜FD SD 運営上の課題＞

- 教員の意識・研修への構え（向上）
- 研修の質 と 形式 [redacted] 実例報告
- ⊖教職員の内なる ニーズ に基く 研修 [redacted]
- ⊖全学FDと学科・学部FD [redacted] 工夫）
- 研修のリーダー育成
- ベストティーチャーを 通 [redacted]

積をつける？

- 教学会とFDを組み合わせる [redacted]
（別研修でない）
- これからの大学経営を考える。

少子化　人事評価？

学修成果の可視化

DP ベースの可視化

結果が良くても熱心な教育の成果ではエンゲージメントが弱い

{サキドリプログラム（理系科目）（ネイマ）
スタディサプリ（リクルート）（教養科目）

GPA academic（ベネッセ）
可視化は可能　学科間 大学間等の比較も可能

学生へのフォロー

＋

GPA 授業評価
卒業論文 ルーブリック
（2～8単位）

3つのポリシーの見直し